

CALLの可能性

—コンピュータの利用は日本の語学教育に
どのような変化をもたらし得るか—

古 谷 千 里*

Possibilities of CALL

—What changes will CALL bring about in the English
Language Teaching in Japan?

Chisato FURUYA

Computer Assisted Language Learning (CALL) is a rapidly growing field. It's still in an early stage, but computers are about to become an integral part of language teaching. What can computers do to assist language instruction?

The computer makes possible a variety of exercises in its quantity and its formats. With a word-processor, writing tasks can turn out to be very enjoyable, because the word-processor's facilities take out so much of the laborious efforts, and the result printed out is a clean and tidy piece of writing. Communicating via computer with English speakers all over the world helps learners to use the target language in the real world. It also helps to develop their cultural awareness.

This article aims to give an outline of what teachers and learners can do with computers in the language class. It also suggests what improvements can be carried out by the introduction of CALL into the English language teaching in Japan.

Key words: authoring, BBC ECONET, CALL, Networking,
Word-processor

原稿受付：平成元年3月31日

*長岡技術科学大学語学センター

CALLの可能性

はじめに

情報処理能力とワープロ機能と通信機能を持つパーソナルコンピュータ（以後PCと略す）は語学教育機器として極めて有用である。PCを利用した英語教育は演習にバラエティをもたらし、そのワープロ機能は文字離れをおこしている現代人の作文力を復活させ、その通信機能（特に国際ネットワーク）は英語を実際に使いながら習得することを可能にする。

小論では1985年より長岡技術科学大学で行ってきた4年間のCALLとイギリス及びアメリカ合衆国でのCALLに関する見聞に基づき、CALLの可能性とその日本の語学教育にもたらすであろう変化と改善について概論を述べる。

0. CALLという用語と概念について

はじめに小論ではコンピュータ利用の語学教育をCALLと表現することについて述べたい。コンピュータ利用の教育を表す言葉にはアメリカとイギリスで異なったり、コンピュータを教育にどのように利用するかによっていくつかの用語に分かれる。

CAI : Computer-Assisted Instruction / Computer-Aided Instruction

CAL : Computer-Assisted Learning

CBI : Computer-Based Instruction

CDI : Computer-Directed Instruction

CMI : Computer-Managed Instruction

CAIはアメリカで好まれ、CALはイギリスで好まれる傾向がある。
-based, -directed, -managed, などは-assisted, -aided よりもコンピュータがより指導的な役割を果たすという考え方に基づいている。（注1）

コンピューター利用の語学教育にはこれらをさらに細分化した表現が用いられている。

CALL : Computer-Assisted Language Learning

AECALL : Audio Enhanced CALL (注2)

VECALL : Video Enhanced CALL (注2)

機器の開発および普及とともに、この分野の表現が増え、変化するのは当然のことである。しかし、1989年現在、コンピューター利用の語学教育を表わす用語としては英米を問わずCALLが定着してきたようである。CALLは /kæl/ または /kɔ:l/ と発音される。小論ではコンピューター利用の語学教育をCALLと表記し、/kæl/ と呼ぶことにする。

1. 日本の英語教育の問題点とCALL

日本の語学教育が望ましい効果をあげられない原因にはさまざまな要因があるが、PCを導入することによって改善されると考えられる点が3つあると筆者は考える。

その第一は、語学教材の選択の幅が大きくなるため、学習者の言葉に対する関心が尊重されるということ。第二は、コンピュータは自分の手で操作しなければならないので、学習者参加型の語学教育が行われるということ。第三は、通信機能の利用によって現実世界で言葉を使いながら学習できるということである。

1-1 教材の選択の幅をひろげる

PCを語学演習機器として利用した場合、その記憶容量が極めて大きいので大量の教材を提供出来、問題形式にも変化がつけられる。そのため教材の選択の幅が広くなり、学習者は関心のある、また語学力に適した言語材料を選ぶことが可能になる。さらに、フィードバックが容易なため、自主的に学習を進めることが可能になる。

一枚のディスクに含まれる教材量は従来の印刷物によるワークブックの

量の比ではない。特に、何十枚ものディスクをハードディスクに入れてLANで（注3）作動させた場合、大量の問題を同時に提供できる。学習者は大量の語学教材から興味のある内容を選び、自分のグレードに合った問題形式を選択できる。言葉は学習者の関心のある題材であればそれだけ学習意欲が湧くものである。従来、語学教材の多くが、教育的配慮や教師の考えで選択されてきた状況を考える時、学習者が関心のある教材内容とグレードを選択できることは語学教育の意義ある改善につながると考えられる。

1-2 学習者参加型の語学教育

PCは従来の語学教育機器と大きく異なる点がある。それは使用者がキーを叩かないかぎり作動しないということである。テープレコーダーやビデオが一度スイッチを入れると学習者が理解しようとしまいとそれにおかまいなくどんどん進むのとは違う。従って、PCで演習を行う場合、学習者が問題に反応しない限り次の問題には進まない。また、PCが語学教育に最も寄与するであろうと考えられるワープロ機能は蔑ろにされてきた作文教育に決定的な影響を与える可能性がある。

日本の公教育における語学教育が1クラス40-60人、多い場合には100人を超える大クラスで一斉授業の形式で行われている現状では、ひとりひとり自分の手でキーを叩きながら学習できることは、日本の語学教育に少なからずよい影響を与えられよう。

1-3 現実世界で言語を使用しながら学習できる

PCの通信機能を利用した場合、実に興味深い語学教育活動が可能となる。その一つはパソコン通信である。国際通信ネットワークを利用した海外の人々との英語による通信は、作文力養成、異文化理解、国際問題意識の高揚等の点で、極めて効果的である。そして何よりも、学習した言葉を使って現実にコミュニケーションできる喜びは大きい。日本の語学教育が講読

を中心とした Grammar-Translation Method から長年抜けきれないでいる原因の一つが、学んだ言葉を使う場がなかったからだとすれば、パソコン通信利用の語学教育は有意義な改善策となり得る。

PCの通信機能はさらに、国内のみならず海外のデータベースにアクセスすることによって国際的な知識の習得やそれを読むための reading 力が養成される。この方法を利用して、テーマを決め、データを集め、グループで討議し、それをレポートにまとめて、問題解決を見いだすという、問題解決能力の養成もできる。これは思考とことばを訓練する本来の言語教育を可能にする。日本の語学教育をそこまでレベルアップさせることは至難の技であるが、日本語を含めて語学教育が果たさなければならない課題ではないだろうか。

以上のような改善案が実際にどのようにして実現できるかその具体的な教育方法について以下に述べたい。

2. 語学演習機器としての可能性

PCは語学演習機器として使用された場合、紙面に印刷された問題集に比べて以下に述べるような長所がある。

2-1 豊富な問題量と多様な問題形式

日本ではPCの語学教育への応用は極めて初歩的な段階にあるように思われる。PCは主に、教師がテスト問題の作成と成績処理に利用している。また学習用ソフトは教科書に準拠した副教材と受験問題にとどまっている。(注4)

他方、本学が1985年に導入したイギリスのAcorn BBC コンピュータ(注5)用の語学教育ソフトは、その量と質は豊富である。現在、語学教育用ソフトが何点くらい出版されているかは正確には把握しきれないがC. Jones and S. Fortescue, Using Computers in the Language Classroom (Longman, 1987) に収録されているソフト出版会社数や教育ソフトの種類

CALLの可能性

と数（1987年時）だけをみても、この分野が日本に比べていかに進んでいるかが窺える。

以下は Using Computers in the Language Classroom のリストに挙げられたもの（注6）である。

語学教育ソフト製作会社数

97社

語学教育ソフトの種類と商品数

種	類	商 品 数
Grammar		19点
Letter Recognition and Formation		8点
Vocabulary		44点
Spelling		8点
Reading		32点
Keyboard Skills		3点
Punctuation		2点
Authoring Languages		2点
General Authoring Package		12点
Word Processing		23点
Writing		18点
Simulations		52点
Adventures		25点
Listening and Interactive Video		11点
Databases		13点
計	15種類	272点

2-2 4技能プラス

PCは上記の表に見られるように、vocabulary, grammar, reading, listening, speakingなどのいわゆる4技能の全ての分野で利用できる。simulationnsが含まれるので4技能以上のことが可能であるともいえる。

Simulationとは与えられた条件のもとで現実問題を解決するプログラムである。例えば、大学祭等で模擬店を開く場合、資金、天気予報、過去の参加者数、材料の値段等が条件として与えられ、それに基づいて、仕入れる材料と数量を決め、利益を出来るだけ多く上げられるように問題を解決してゆくプログラムである。(注7) この教材は vocabulary, reading の力が試されるばかりでなく、解答を入力する度にPCがそれに対してシミュレーションを行う。この作業を複数の学習者で行う場合、学習者間で、意見の交換が行われ、総合的な言語能力が養成される。この分野には上記のC.JONES AND S.FORTESCUE (1987) の分類によれば、Simulations と Adventures が含まれる。

2-3 広い選択範囲

PC上のプログラムでは学習者は関心のある教材内容を選び、読書スピードや文字の大きさ等の問題の難易度を選択できる。例えば、ストーリーを読んで、それを再現するプログラム Storyboard (注8) では、話題と読書スピードを選択できる。

表1はtopicの選択をするページである。

- | | |
|---|----------------------------|
| 1 | Lost in a book |
| 2 | On view for the lions |
| 3 | Made to last |
| 4 | The house that isn't there |
| 5 | Sunk |
| 6 | A polite suggestion |

- 7 On the way to the opera
- 8 Bored
- 9 A queue for nothing
- 10 Out of sight
- 11 Disaster in the rush hour
- 12 A new fashion for fruit trees
- 13 Stripped
- 14 A mouthfull of trouble
- 15 Upstairis downstairs
- 16 Between the acts
- 17 Umbrellas Part 1
- 18 Umbrellas Part 2

Which story please?

表2は読書スピードの選択をするページである。

How difficult?

- 1. Read text for as long as you like
- 2. See complete text for 30 seconds
- 3. See complete text for 10 seconds
- 4. Start without seeing the text

Choose 1,2,3,4 -

速読のプログラム Speed Read (注9)では、読書スピードの他に文字の大きさを選択できるばかりでなく、理解度のテスト問題を本文を読む前に見るかどうかを選択できる。

表3は読書スピードを選択するページである。

How fast? Choose a number:

1 2 3 4 5 6 7 8 9

(or 0 for untimed reading)

表4は文字の大きさを選択するページである。

Do you want the words to be

1 double height

2 single height

表5は理解度のテスト問題を本文を読む前に見るかどうかを選択するページである。

Do you want to see the questions before you start
reading? Y/N

クローズテスト（注10）では消去する単語の頻度を選択できる。

表6は伏せる単語を何語置きにするかどうかを選択するページである。

How often do you want a word deleted?

Type a number between 5 and 15 and then press RERURN

言葉はあくまでも人間が表現意欲をもって初めて習得され、使用される。この原則はたとえ演習であっても変わるはずがない。その意味で、演習教材のトピックスを選択し、読書スピードや問題の難易度を学習者本人の意欲と習熟度に応じて選択できることは、CALLのもたらす極めて有意義な改善策である。

2-4 容易な自主教材作成 — オーサリングプログラム

PCを語学演習機器として利用する場合の大きな利点の一つは自主教材作成が容易であることである。教材作成用プログラムとして authoring program とか authoring language と呼ばれるソフトがある。これは教材としての英文（英語教育の場合）をタイプし、希望のプログラムを指定すれば、それだけでPC用の自主教材ができ上がるソフトである。これは単品として市販されているもの（注11）もあれば、CALLソフトの一部として組み込まれている場合もある。オーサリングプログラムが含まれているかどうかは、教育ソフトの評価を左右するほど重要である。（注12）

既製のCALLソフトの場合、問題形式が適切であっても、単語レベルや言語内容が不適當であったりする場合がある。オーサリングプログラムは、問題形式をそのままにして、希望の英単語や英文テキストをタイプインするだけで、教材内容を変更することができる。例えば、工学に必要な専門英語のテキストをタイプインし、storyboardのオーサリングプログラムに組み込めば、科学技術英語の storyboard CALL ソフトが出来上がる。Speed Read のオーサリングプログラムに組み込めば、科学技術英語の Speed Read のCALLソフトが出来上がる。

CALL教材を、通常の一斉授業と関連を持たせるほど教育効果があがる。例えば、一斉授業ではLLでビデオやオーディオテープ教材を使って音声面に重点を置いて行う場合、reading や writing に十分に時間を割けない。そういう場合、このプログラムを使って、video や audio 教材の outline や letter writing や理解度テスト等のCALLプログラムを作成することによって、reading skills や writing skills の強化をはかることができる。

日本の英語教育が抱える問題の一つに、時々刻々に変化してゆく英語（up-to-date English）を教材としていないという批判がある。CALLはこの点にも改善をもたらし得る。オーサリングプログラムは教材の書き換

えを容易にするからである。従来、教師は問題を作成し、タイプインし、レイアウトし、印刷して、学生に配ってきた。その一部を書き換える場合、作業は全ての課程を繰り返さなければならなかった。オーサリングプログラムがあれば変更する部分だけをタイプしなおすだけでよい。改訂作業が容易になれば、時代遅れの英文を修正することを厭わないであろう。

3. ワープロ機能と作文力養成

コンピュータのワープロ機能を利用した場合、文を書くことが極めて容易になる。読みやすく、修正しやすく、編集が容易だからである。これは学習者と教師の両者にとって利点である。さらに、辞書機能やデータベースによる情報検索機能を利用することによって、テーマを深めた essay writing 等が可能になる。

書くという作業は本来、個人の作業である。しかし LAN に接続された PC のファイル保存機能を利用すれば、一つのファイルに次ぎから次ぎへと複数の人が書き足し、一枚のディスクに複数の人の意見を書き込む複合型の writing が可能になる。

3-1 Guided Writing と C A L L

文法習得を主目的とした guided writing も C A L L ソフトを利用することによって単なるクイズ形式の作文演習から、より本来の writing skills 習得の演習に成り得る。

例 1 は controlled writing の典型的な例である。数、時制などの一致 (agreement) に関する C A L L ソフト (注13) の一例である。

(例 1)

Hi! My name's Jenny. I'm 15 years old and I live in Barnet, in North London. I'm not really sure how to describe myself. I've got a small family, just myself, my mother, my father and

my dog Bonzo. I don't have many hobbies. I like skating, and I sometimes go horse-riding with Ann, a very good friend of mine who lives next door.

この英文を基に自分のことを描写することが課題である。学習者はこの文を土台にして英文を書き換える。元の文は技術的には消去できないようになっており、学習者は何度でもこのプログラムを呼びだして書き換え練習をすることができる。ワープロの修正、編集機能があるため、作業がどんなに容易に気軽にできるか、想像に難くない。

ワープロの編集機能を効果的に利用したものに Two-in-One Stories と名づけられている方法がある。(注14) 例2は2つの関係のない story が文の単位でバラバラに配列されている。これを2つ story に分け、さらにその文脈を整えて、story を完成させるものである。

(例2)

The Stork ; and the Chairman

The cook stole a leg from a beautiful roast stork just before it was served to the king.

"But Your Majesty, you didn't clap last night!"

He glowered at them. "Gentlemen, I have something I must say: half of you are idiots."

The king asked him angrily why the bird only had one leg.

One day, a company chairman got very angry with his board of directors.

The king clapped his hands and the birds flew off. "There," he said, "You see, they all have two legs the moment I clap."

"Very well," the chairman said. "I withdraw it—half of you are not idiots."

Next morning the cook and the king went down to the river and saw the storks all standing on one leg.

One of the directors stood up and banged on the table. "I demand that you withdraw that last observation, Mr Chairman."

The cook replied, "Storks only ever have one leg—come to the river with me tomorrow and I will show you, Your Majesty."

以上10に分けられた文を、もし、手で書き直したりタイプし直さなければならなかったら面倒なことである。ワープロの編集機能を利用するなら、各文をカーソルで移動するだけでいい。この問題は reading skills の問題でもあるが、論理構成の訓練として大変有効であり、writing skills の準備の段階で利用したいプログラムである。(注15)

3-2 Free Writing と Group Activity

ワープロの修正、編集、保存の機能が書く作業をどんなに容易なものにするかは説明するまでもない。英作文教育について言えば、学習者側にとっても、自分の書いた英文が見やすいため、spelling や grammar の間違いを自分で発見しやすくなり、教師からチェックを受けた後も書き直すことが容易で不快感を伴わない。さらにPCのその他の機能を利用することに

よって、writing 教育は一層幅広いものになり得る。

Spell check, grammar check, style check 等のプログラムを利用することにより、学習者は spelling や grammar や style について自学自習でき、教師はそれらの修正の手間が省け、作文上、より本質的な観点を指導できる。すなわち、作文に必要な資料の集め方や論理の一貫性の指導等に多くの時間を使えることになる。文字の種類や大きさ、飾り文字、グラフや図形を駆使することによって、レイアウトも含めた総合的な writing 力を養成できる。

さらに、PCをLANに接続した場合、writing 作業に新しい可能性が出てくる。その一つは、PCがネットワークになっている場合、書かれた作文をハードディスクに保存したままで、教師の修正を受けることが出来る。教師はハードディスクに保存されている作文を教師用のPCに呼び出し、修正することが出来る。従来のように紙面にプリントアウトしたり、修正を受けた作文をもう一度初めからタイプし直す必要がない。

LANに接続されていることによって可能になる第2の活動は、複数の人で作文を書きつないで行くことが出来る。学習者Aが文を書き出し、それを保存し、次ぎに学習者Bがその作文を自分のPCに呼び出し、Aの作文に書き足して行くことが出来る。

例3はこのようにして書き続けられていった例（注16）である。

（例3）

Salem is a student at Bell College. He constantly feels chilled and always wears a triple-lined jacket and a thermal moustache.

Salem is a student at Bell College. He constantly feels chilled and always wears a triple-lined jacket and a thermal moustache. He is from Saudi Arabia. On his birthday recently

he celebrated in great style: with a whole bag of greasy chips bought at the local Chinese fish and chips shop. He told his friends that his impression of Sino-British cuisine had never been so favourable.

Salem is a student at Bell College. He constantly feels chilled and always wears a triple-lined jacket and a theraml moustache. He is from Saudi Arabia. On his birthday recently he celebrated in great style: with a whole bag of greasy chips bought at the local Chinese fish and chips shop. He told his friends that his impression of Sino-British cuisine had never been so favourable. David and the other friends take him every night to the pub in a keen attempt to make him drink beer, but he always asks for St. Christopher.

複数の人によって書かれることによって、話が意外な方向に展開し、面白い作文が出来る可能性が高い。

従来、書くという作業は個人のものであり、作文教育は学習者対教師の一对一の活動であったが、この方法では複数の学習者間で行えるという新しい方法が生まれつつある。

3-3 PCのその他の機能を利用して可能になること

日本での英作文の大半は和文英訳である。PCの記憶容量の大きさと辞書プログラムを利用することによって、翻訳作業も容易になる。

辞書の一つにワープロの中に組み込まれている personal dictionary がある。個人が頻繁に使う単語や表現を personal dictionary に登録して文書作成時に使用できる。さらに、100万語の辞書機能を持つ翻訳支援ソフト(注17)も開発、市販されている。この辞書には基本語にとどまらず、情報処

理、電子・電気、建設等の専門用語が含まれており、文書作成中に単語を検索し、文章中に挿入することが出来る。このように便利なソフトを英語教育に積極的に利用して、時間と労力のかかる和文英訳の作業から人々を開放したいものである。

従来の日本の英語教育が受信型の語学教育に留まってきたが、今や発信型の語学力が要求されている。それはとりもなおさず speaking ability と writing ability が求められていると筆者は理解している。聞くにとどまらず意見を述べる力と読解にとどまらず意見を書く力が求められている。話し言葉と書き言葉の両面において発信する力が求められているということである。PCのワープロ機能は書き言葉の面で語学教育の改善に大いに貢献するものと思われる。

4. 通信機器として

PCはモデムを付け電話機に接続することによって通信機器として機能する。こうして行うコミュニケーションがパソコン通信である。国際通信ネットワークを利用し、海外の英語使用者とコミュニケーションすることによって真の言語運用能力を養い、異文化について学習することができる。さらに、国内のみならず海外のデータベースにアクセスすることによって最新の国際情報を得、国際的な視点から思考することが可能になる。

4-1 国際通信ネットワーク

国際通信ネットワークを使って海外の英語話者と英語でコミュニケーションすることは学んだ英語を実際に使うよい機会となる。習得した言葉が実際に役立つという経験をもつことは大きな喜びになり、より上級の英語学習への強いモチベーションとなる。

パソコン通信では時差にとらわれずにいつでもメールを世界中に送ることができる。また送られてきたメールはディスクに保存したりプリントアウトすることによって、即座に魅力的な生の語学教材となる。

パソコン通信に使用される英語は手紙の英文に比べて簡潔な表現を用いる傾向がある。学生は送られて来た英語を土台に英文を書くため、新しい表現を習得しやすく、また上達が早い。

通信上、最も重要なことは正しい英語表現というよりは何を話題とするかにある。その話題の選択、説明の仕方などを考える時、異文化を意識せざるを得ない。言葉が文化と表裏一体となっていることを現実言葉を使って体験できることが多い。海外の人々とのパソコン通信は言葉を本当の意味でコミュニケーションの手段として使い、同時に異文化について身をもって学ぶことになる。

4-2 国際情報検索

PCの通信機能はメールの交換ばかりではなく、国内、外の情報検索を可能にする。特に、英語教育の分野では海外のデータベースにアクセスしたり、最新のニュースを読むことによって、上級の reading skills の養成、その情報を基に writing, discussion, problem solving 等の上級の英語教育を現実の問題に基づいて行うことができる。

5. CALLに関する留意事項

語学教育にコンピュータを導入するにあたって、いくつかの配慮しなければ問題点がある。

5-1 語学教育の基礎としての音声教育

コンピュータは主に書き言葉による語学教育の改善に寄与すること大であるが、その基盤として音声教育があることを忘れてはならない。英語のもつ本来のリズムを体得してこそ速読ができ、自然な流れのある英文が書けるようになる。CALLを語学教育の一環として導入するとき、CALLが音声教育と両輪を成すように授業設計することを忘れてはならない。

5-2 ネットワーキング

コンピュータを教育で利用する場合、複数のPCをネットワーク化することが望ましい。LANにすることは先ず経済的である。Acorn BBC Econet の場合は254台までの端末をLANに接続できるため、一枚のソフトで最大254人の学生が学習出来る。254枚のソフトを購入しなくともよいのである。さらに、ソフトはハードディスクにインストールされるので、学生が直接ソフトに触れないため破損や損失のおそれがない。

またLANにすることによって可能になる新しい教育方法がある。作文提出をネットワーク上でできる。即ち、ペーパーやディスクで提出しなくとも教師の訂正や指導を受けられる。複数の学生が共同で作文し、Desk-top Publishing等のソフトを利用して出版物を作製することができる。また、データベースにアクセスした場合、その情報を何台かのPCで同時に利用ことが出来る。

5-3 ソフトウェアの著作権

オーディオテープ、ビデオテープとともにソフトのコピーと著作権の問題は深刻である。一つのソフトを授業で同時に使用する場合、学生の数だけソフトを購入しなければならない。しかし、PCがLANに接続されているならば、著作権を犯すことなく、一枚のソフトで多数の学生にプログラムを送ることが出来る。ソフトウェアの著作権を侵害しないためにもLANは欠かせない。

5-4 語学教育の予算

教師が一冊のテキストを教室に持って行きそれを訳し、解説をする時代は終わった。語学教育の場に、地図や写真などの参考資料、テープレコーダー、ビデオデッキ等があれば、目標言語がどのように発音され、使われるかが理解されやすい。さらに、これにPCを加え周辺機器を備えれば、

小論に述べたようなさまざまな言語教育活動が出来る。このような環境を作るには資金が必要である。大学教育に限って言えば、語学は非実験科目として扱われ、装置や物品を必要としない教科として扱われている。その扱われ方はまるで、一冊のテキストと教師さえいればよいという時代のままである。この考え方は大学に限ったことではない。中学校、高校、大学のどの教育段階においても大同小異である。

PCをはじめ、高度に発達した通信手段を使えば、英語で世界の人々といつでもどこからでも交信できる時代を迎えつつある。語学教育も時代に即応した環境の下で時代の要求する語学力をつけられるように、教育予算の面からの改善も必要である。

5-5 教員養成

物理的環境整備の前にそれを駆使できる指導者が不可決であることは言うまでもない。しかし、この進歩の早いテクノロジーに追い付いて行かれる語学教師は少ない。従って、教師の再教育の必要性が以前にも増して大きくなってきている。

終わりに

PCが私達の生活を大きく変えつつある。日常生活も労働の形態も、そして当然のことながら教育の方法でもある。特に、高度情報化時代を迎え、英語が世界共通のコミュニケーション手段になってきた今日、英語教育も大きく様変わりせざるを得ない。PCばかりではなく、衛星放送、ファクスや電話などの国際通信手段を総合的に利用して世界に開かれた語学教育を行えるようになりたいものである。

謝辞

コンピュータについて全く無知だった筆者に語学教育機器としての可能性を教えて下さった次ぎの方々に心から感謝申し上げます。

CALLの可能性

本学の Acorn BBC CALL システムに多大の労力を払って下さった:
リューベン・ゲーリング先生 (1989年8月まで本学), 小林史典先生 (九州
工業大学), 佐久田博司先生 (本学), Mr. David Eastment (Bell College
Saffron Walden), 金田康正先生 (東京大学大型計算機センター), Mr. Ian
Plutt (The British Council), 上野山雅彦氏 (本学卒業生)

パソコン通信による語学教育の可能性を御教示くださった: 内藤祥雄先
生 (本学), Ms. Marilyn Schlieff (Teacher Consultant for Global
Communication, Michigan, USA), 新潟県 K I S S - N E T の皆さん, 本
学計算機センターの先生方, この新しい実験教育に参加して下さいた本学
の学生達, 面倒な事務上の困難を乗り越えて, CALL の研究・教育に協
力して下さいた本学事務局の方々,

これらの方々の御指導と御協力なしでは進歩の速いテクノロジーについ
て学ぶことは到底出来なかった。ここに改めて感謝申し上げます。

Notes & References

(注1) これらの用語については Khurshid Ahmad, et al. 1985, Computers, Language Learning and Language Teaching, Cambridge University Press, pp.2-3, 及び Rex Last, 1984, Language Teaching and Microcomputer, Basil Blackwell, p.vii に詳しい。

(注2) コンピューターとオーディオ機器またはビデオやレーザーディスクを連動させたもの。D. Eastment, 1987, Computer Assisted Language Learning, The Bell Educational Trust Academic Reports, Bell Educational Trust, p.11

(注3) LAN: Local Area Network PC を複数台がネットワークに接続すること

(注4) 日本で市販されている英語教育用ソフトはそのタイトルからもこのことが一目瞭然である。商業用カタログからいくつか拾ってみると:

A. 教科書準拠のもの及び受験用:

中1基本と英語練習/文法と英作文練習 (中1-中3)	3点
英語ピラミットパワーシリーズ (ニュープリンス版)	
(中1-中3)	3点
英語ピラミットパワーシリーズ (クラウン版) (中1-中3)	3点
英語ピラミットパワーシリーズ (トータル版) (中1-中3)	3点
英語ピラミットパワーシリーズ (ホライズン版) (中1-中3)	3点

英語スフィンクス問題集 全国版 1-3	3点
マイ英語レッスン 教科書完全準拠タイプ (ニューホライズン) (中1-中3)	3点
マイ英語レッスン 教科書完全準拠タイプ (ニュープリンス) (中1-中3)	3点
マイ英語レッスン 教科書完全準拠タイプ (ニュークラウン) (中1-中3)	3点
マイ英語レッスン 高校受験用	1点
Voca Master (大学入試必須英単語) 英単語問題作成システム	1点

B A以外のもの:

タゴサク君シリーズ (英和, 和英, 辞書付ローカルプレーイングゲーム)

中学英語シミュレーションシリーズ (全10巻)	1点
マイクロ・タイピングチュータ	10点
マイクロ・ワードチュータ	1点
マイクロ・リーディングマスター	1点
マイクロ・クローズリーディング	1点
マイクロ・ファースタリド	1点
マイクロ・ライター	1点
英単語選択	1点
英単語つづり方	1点
英文並べかえ	1点
英作文英文法	1点
マイクロ・レコードファイル (成績処理ソフト)	1点
オーラルライター (ディクテーション)	1点

計 (A+B) 53点

(注5) BBC Acorn コンピュータは英国で教育用として最も普及している機種である。そのシェアは80%を超える。日本では、1989年3月現在、上野学園大学短期大学部、長岡技術科学大学、British Council Cambridge School、外務省研修所の4ヶ所でネットワークが利用されている。

(注6) C.Jones and S.Fortescue, 1987, Using Computers in the Classroom, Longman, pp.140-148.

(注7) Fast Food (CUP: Acorn BBC, Apple)

(注8) Storyboard (Wida; Acorn BBC, Apple)

(注9) Speedread (Wida; Acorn BBC, Apple)

(注10) Clozemaster (Wida; Acorn BBC, Apple)

(注11) 例えば, Microtext (Acornsoft; Acorn BBC)

(注12) Authoring が可能かどうかはソフトの仕様に明示されている。

(注13, 14) これは Bell College, Saffron Walden の Writing 教育に用いられている自主作成教材で市販されているものではない。

(注15) これに似たソフトに Sentence Sequencing (Acornsoft; Acorn BBC) がある。

(注16) Bell College Saffron Walden での CALL course (August 1987) の参加者の

CALLの可能性

作った作文である。

- (注17) 電子林(東洋情報システム:PC-9800,IBM5550,SORD M68-MX,FM-16B)このソフトには改善の余地がまだあるが、この種のソフトが一層開発されることを期待したい。